

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医

カルテ

カルテ



65



アイビー動物病院長

(射水市戸破)

宮川 慎

犬の「逆くしゃみ」は、「ズーズー」や「ブーブー」といった音とともに、口を閉じて鼻の奥で苦しそうに何度も息をする状態です。診断的には「発作性呼吸」と呼ばれ、鼻咽頭の尾端部の粘膜が何らかの刺激を受け、強い吸気を伴う頻繁な呼吸を起します。原因は不明です。

治療は必要ないことが多いですが▽今までしたことがなかった子が急に頻発に起こすようになる▽日常的にみられる子でも回数や音の質が今までと違う▽鼻血やうみが出る▽食欲や活力が低下してきた▽などの場合は、診察が必要になることがあります。

### 逆くしゃみ



咽頭部にできた唾液腺粘液嚢腫（非腫瘍性）

## 疾患重複している場合も

小型種に多く見られますが、柴犬などの中型犬でも認められますので、犬種による差は少ないです。また猫でも起きることがあります。

鼻咽頭を刺激する病的な要因として、鼻咽頭尾端部における炎症性疾患、異物、腫瘍を含む腫瘍などがあります。

炎症性疾患にはウイルスや細菌、真菌などの病原体が関与する感染性のもや、免疫細胞である白血球の仲間が鼻咽頭粘膜で炎症を起すもの、特発性のもなどがあります。

異物は、草の実やごみなどが原因となります。鼻や口から吸い込むことで、鼻咽頭の粘膜が刺激さ

れます。

腫瘍については、腫瘍性と非腫瘍性があります。腫瘍性にも良性と悪性がありますが、悪性のもは予後が非常に悪いです。非腫瘍性の腫瘍は悪性腫瘍のように転移はしませんが、大きくなると気道が占拠されて呼吸がしづらくなり、生命の維持に関わる事態に陥

ることもあります。

逆くしゃみを示す疾患は上部気道疾患で見られるので、複数の症状や疾患が重複している場合もあります。日頃から意識して観察していただき「あれ？」と思ったら早めに動物病院を受診して確認してもらいましょう。可能であれば、症状が出ている時の動画を撮影して持って行くと、主治医の獣医師が診断する助けになります。